



視覚面でのブランド構築

Joseph Diaz

執筆者の紹介



執筆者の紹介

Joe Diaz 氏は、イリノイ州ポンティアックで家族が営む看板製作店で育ちました。高校生のときに初めてロゴを作成し、以来、10年以上にわたってプロとして看板のデザインを手がけています。家族で経営している Diaz Sign Art は、ブランドアイデンティティやブランド認知の創出、宣伝効果の拡大につながるユニークなグラフィック コンセプトの確立に誇りを持って取り組んでいます。CorelDRAW を導入したのは、グラフィック デザインにコンピュータを初めて取り入れたのと同じ 1992 年でした。Joe は、CorelDRAW マスターと称され、2011 CorelDRAW 国際デザイン コンテストで大賞を受賞しました。詳しくは、同氏の Web サイト (diazsignart.com) をご覧ください。

視覚面でのブランド構築

顧客の依頼のほとんどはロゴのデザインだけですが、ブランド開発を請け負うこともあります。ロゴとブランドの違いとは何でしょうか。ロゴは、ビジネスや組織を認識してもらうためにマーケティングで使用する視覚的なマークです。一方、ブランドは、ロゴよりもはるかに幅広い概念です。ブランドは、ビジネスの広告戦略とマーケティング戦略の総合的な結果として生み出されるものです。また、お客様や顧客の感情的な反応や評価から生み出されるものでもあります。

グラフィック デザイナーが顧客に対してできることは、ブランド開発のごく一部に限られています。ブランドを完全に創出することはできません。ブランドを形作る要素のほとんどは、提供するサービスの品質や、評判、ホスピタリティなど、自分ではコントロールできない要素だからです。したがって、自分でコントロールできる要素に絞って取り組むようにしています。具体的には、ビジネスや組織に適した視覚的な表現や雰囲気を生み出すことです(図1)。

ブランドを創出するときは、よくロゴの作成から始めます。ロゴは、ブランドを視覚的に表現する場合の全体の土台となるからです。このため、顧客とじっくり話し合っ、顧客やビジネスを少しでも深く理解してから、コンセプト作りに入るようにしています。



図1: さまざまなマーケティング資料の Arcadia のロゴ

このチュートリアルでは、私が創出を手がけた Arcadia Games & Grill のアイデンティティの事例を楽しみながら見ていこうと思います。Arcadia は、レストラン、スポーツバー、ゲームセンターがすべて1箇所に集まった楽しくくつろげる施設です。たくさんのアイデアが思い浮かびましたが、最終的には1つのコンセプトにまとまりました。それが、ジョイスティックを握るアルカディア (Arcadia) の戦士のイメージでした。名前が持つゲーム感覚の遊び心や、ジョイスティックのイメージが醸し出すビデオゲームの視覚的な表現が、このビジネスにはぴったりだと感じたのです。

まずは、鉛筆で簡単に描画します (図2)。荒削りでプロポーションも正確でないですが、最初はこれで十分です。



図2: 鉛筆でのスケッチ

次に、CorelDRAW を起動し、暗いバックグラウンドのファイルを新規作成します。暗いバックグラウンドは、看板、メニューの表紙、乗り物の広告など、さまざまなマーケティング資料で効果を発揮します。この戦士のモデルの影をバックグラウンドとブレンドし、ハイライトと中間トーンを使用して、明るくカラフルに見せようと考えていました。また、最終的には明るいバックグラウンドにマッチする、さまざまなバージョンのロゴを作成できることも分かっていました。

暗いバックグラウンドでは、**長方形ツール (F6)** を使用して、大きなダークグレーの長方形を作成し、カラーパレットのカラーボックスをクリックして、グレーの影を適用します。

次に、**[ファイル] ▶ [イメージの取り込み]** をクリックし、スキャナで描画をスキャンして、鉛筆での描画を CorelDRAW に取り込みます。イメージを取り込んだら、イメージをダークグレーの長方形の上に配置します。スキャンしたイメージを選択した状態で、ツールボックスの**透明ツール**  をクリックします。プロパティバーに、**透明ツール** 関連のコマンドが表示されます。**[マージモード]** リストボックスから **[減算]** を選択して、スケッチの白のバック

クグラウンドを除去し、ダークグレーのバックグラウンド上に黒の鉛筆の線を残します(図3)。また、長方形のバックグラウンドとスケッチを選択して右クリックし、[オブジェクトのロック]を選択して、これらのオブジェクトをロックします。ロックすることで、バックグラウンド上での作業中に、バックグラウンドのオブジェクトを誤って選択することがなくなります。



図3: スケッチの白のバックグラウンドを除去し、暗いバックグラウンド上の鉛筆の線を残す

選択ツールを使用し、ページの何も無い白の領域をクリックして、すべて選択解除します。次に、カラーパレットで白色を右クリックします。オブジェクトを選択する場合に右クリックすると、色がオブジェクトの輪郭に適用されます。左ボタンでクリックした場合は、色がオブジェクトの塗りつぶしに適用されます。この場合はオブジェクトを選択していないため、[ドキュメントのデフォルトの変更]ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスの設定では、新規オブジェクトのデフォルトのスタイルを指定します。[グラフィック]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[OK]をクリックして、デフォルトの輪郭カラーを白に設定します。この設定は、同じステップで簡単に変更できます。

次は、ベクトル形状を描画します。ここは、作業の中でも面白い部分です。ベクトルのロゴは、通常以上に柔軟性が高く、ブランドのあらゆる側面で簡単に使用できます。CorelDRAWの習熟度や経験の中で身につけたテクニックにもよりますが、この次のステップには多くの方法があります。個人的には、フリーハンドツールを使用して、大まかな形状を描画してから、細部を調整する方法が好きです。

フリーハンドツールはさまざまな方法で使用できます。たとえば、ドラッグするだけで曲線を素早く作成することができます。私の場合は、直線の描画から開始することが多いです。この方法で形状を作成するのは、最初に線を素早く作成し、後からすべての形状を正確に微調整できるからです。この場合、スケッチの輪郭をたどるように直線を描画します。マウス

ボタンをクリックして離し、直線の作成を開始します。再びクリックして、線を終了します。そして、最初の線の終点から次の線の作成を開始します。こうして、形状全体で直線セグメントを接続したら、最初に作成した線の始点をクリックして、形状を最後に閉じます(図4)。形状に塗りつぶしを追加するには、形状を閉じる必要があります。



図4: フリーハンド ツールを使用したベクトル形状の作成

次に、直線に曲線を追加していきます。形状を選択して、**整形ツール**  をクリックします。プロパティバーの**[すべてのノードを選択]** ボタンをクリックし、**[曲線に変換]** ボタンをクリックします。これで、線上の任意の場所をクリックして、目的の曲線にしたり、ノードを選択し、ノードハンドルを使用して、目的の曲線を作成したりできるようになります(図5)。



図 5: 直線を曲線に変換する

同じテクニックを使用して、このロゴの形状をすべて作成します。形状は、元のスケッチから少しずれています (図 6)。先ほども触れましたが、このスケッチのプロポーシオンは完全に正確ではないので、これで問題ありません。目的の外観になるまで、実験しながら 1 つずつ微調整すれば良いのです。



図 6: ロゴに形状を追加する

選択ツールを使用して、形状をすべて選択し、プロパティバーの[オブジェクトのグループ化]ボタンをクリックして(Ctrl + G)、形状をグループ化します。次に、カラーパレットから明るいグレーを選択して、形状を塗りつぶします。また、カラーパレットの上に「X」が付いている空白のカラーボックスを右クリックして、白の輪廓を削除します(図7)。



図7: 明るいグレーで形状を塗りつぶし、白の輪廓を削除する

次に、ロゴの残りの形状を作成します。ここでは、明るいグレーではなく、中程度のグレーを使用します。作業が完了したら、スケッチを削除します。削除するには、バックグラウンドを右クリックし、[オブジェクトのロック解除]を選択します。バックグラウンドオブジェクトのロックを解除した状態で、スケッチを選択し、[削除]ボタンをクリックします。これで、ロゴのグレースケールバージョンができあがりました(図8)。



図 8: ロゴのグレースケールバージョン

ロゴのイラストが完成したら、次はロゴタイプ、つまりテキストを作成します。テーマにマッチしたギリシャ風の趣を出したかったので、伝統的なギリシャの輪郭がはっきりした石造り風のレタリングを選択しました。希望に添った外観のフォントはたくさんあったのですが、独自のフォントを作成することにしました。大手企業の多くは、独自性のあるフォントがブランド認知に有効であるため、メインコピーには標準的なフォントを使用せず、独自のフォントを作成しています。

まず、Arialなどの基本フォントでビジネスの名称を入力します。テキストツール  を使用して、バックグラウンドをクリックし、「ARCADIA」と入力します。テキストを選択した状態で、整形ツール  をクリックします。ハンドルが2つ(テキストの両側に1つずつ)が表示されます。右側のハンドルを外側にドラッグすると、単語のカーニングを調整できます。私の場合、カスタムテキストを作成するときは、文字の周囲のスペースをたっぷり確保するようにしています。こうすることで、作業中に特定の文字が次の文字の邪魔にならずに済みます。文字間のスペースは後から最小化できます。

テキストを黒で塗りつぶしてロックします。こうすることで、文字を誤って選択したり移動したりすることがなくなり、文字上で作業したり、文字を参照として使用したりできます。また、テキスト要素には、バックグラウンドと似た色の影を付けることにしました。この場合、作業する上で十分なコントラストが得られると同時に、文字の上に作成する新しい形状がコントラストで圧倒されずに済みます(図9)。

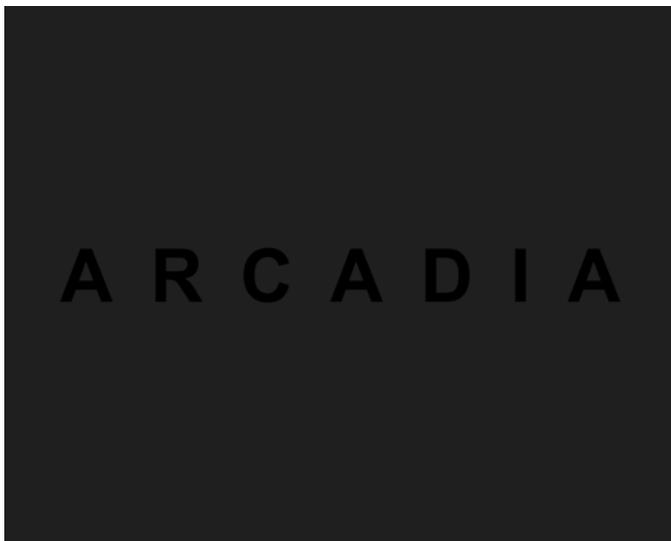


図 9: テキストを追加する

次に、フォントのテンプレートを作成します。このテンプレートを使用して、レタリングを構成する線の幅を定義したり、ベベル効果を適用する位置をマークしたりできます。ベベル効果を適用することで、表面から浮き出るような 3D 効果のテキストを表現できます。ほとんどの一般的なプログラムの場合、ビットマップ ベベル効果は簡単に自動適用できますが、ベクトル ベベル効果はあまり上手に処理できません。CorelDRAW では、カスタム ベクトル ベベル効果を手動で作成することができます。

長方形ツール  を使用して、文字の線の幅と同じ幅で長方形を作成します。次に、**フリーハンド** ツール  を使用して、長方形を半分に分割する垂直線を描画します。**選択** ツール  を使用して、線を選択し、カラーパレットで赤のカラーボックスを右クリックして、線の色を変更します (図 10)。この線はガイドとしてのみ使用し、最終的には削除します。長方形と線をグループ化します (**Ctrl + G**)。

ガイドラインについて述べると、CorelDRAW は、このような作業に最適なガイドライン機能を標準で備えています。作業領域の上側と左側にルーラーがあります。水平のガイドラインを作成する場合は、上側のルーラーをクリックし、ガイドラインを作業領域にドラッグするだけで作成できます。ガイドラインは、この後のステップでレイアウト作業を行う際に役立ちます。

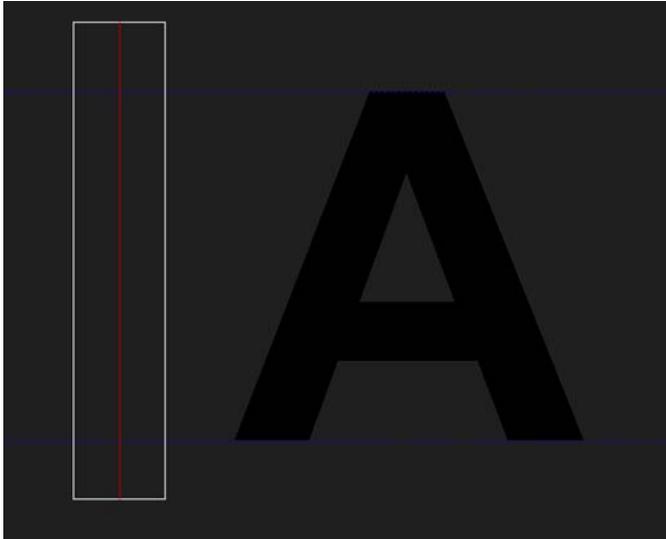


図 10: 長方形を作成して、各文字内の線の幅を定義する

次に、長方形を2回複製して (Ctrl + D)、長方形を3つ作成します。3つの長方形を使用して、「A」の文字を作成します。選択ツール  を使用して、長方形のいずれかを2回クリックし、回転ハンドルを表示します。これで、回転ハンドルをグラブして、長方形を回転できるようになります。「A」の文字になるように、必要に応じて形状を移動および回転します (図 11)。

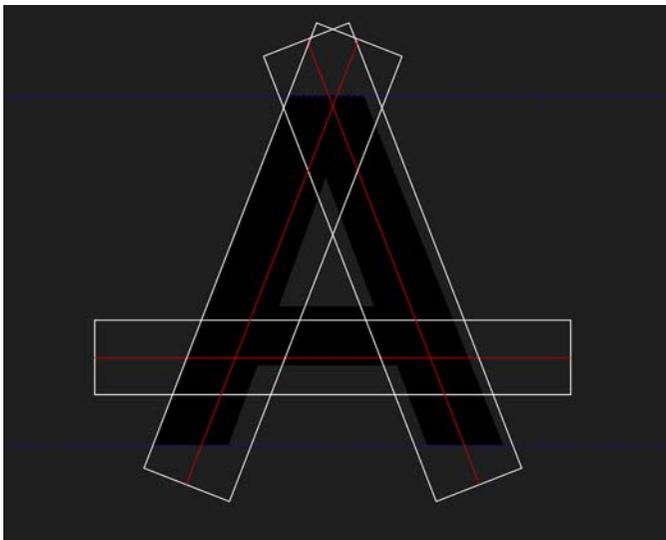


図 11: 長方形を移動および回転して、文字「A」を作成する

この段階で、ベベル効果の外観をどのようにするかについて検討を始めます。文字がリアルに3Dであるかのように見せるために、文字に照明をどのように当てるかを明確にすること

で、照明ソースの視覚的な表現をスムーズに作成できます。また、文字の残りの部分を作成するガイドラインとして機能する赤の線も追加します(図12)。残りの輪郭も赤に変更します(図13)。

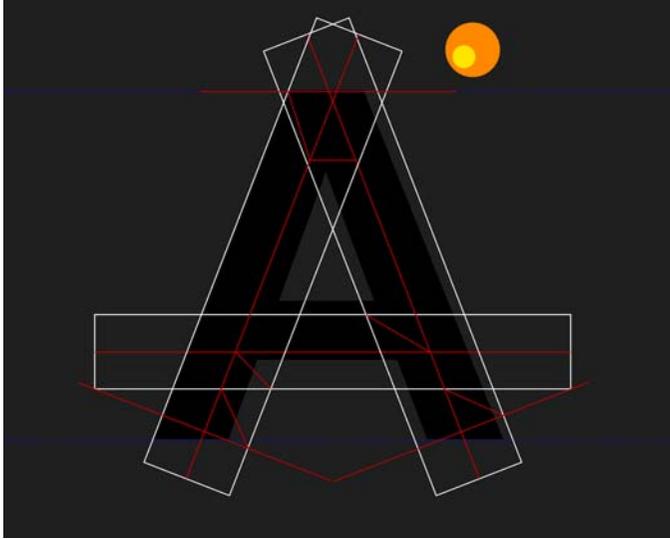


図 12: 照明ソースおよびガイドラインとして機能する赤の線を追加する

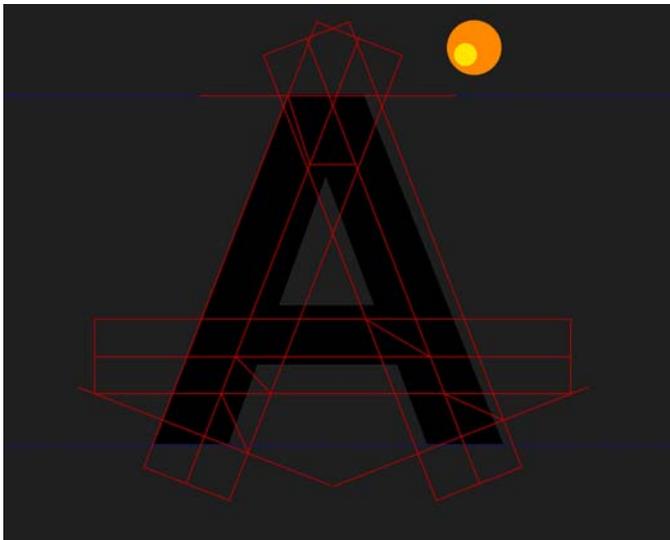


図 13: 残りの輪郭を赤に変更する

フリーハンドツール  を使用して、最終的に文字を構成する形状を作成します。赤の線は、完成時にすべて削除します。[オブジェクトにスナップ] コマンド ([表示] ▶ [スナップ] ▶ [オブジェクト]) が有効になっていることも確認し、作成した直線が赤の線の点または交点にスナップされるようにします (図 14)。

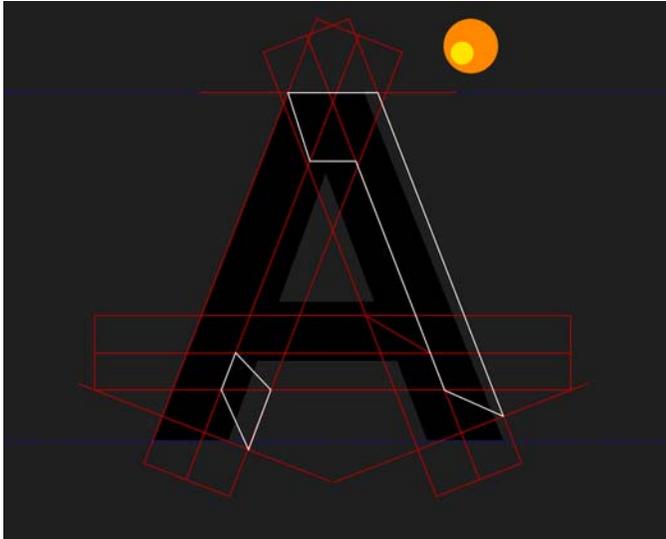


図 14: 赤の線をガイドとして使用し、フリーハンド ツールを使用して形状を作成する

形状をすべて作成したら、照明ソースに注意しながら、各形状に塗りつぶしカラーを割り当てます。赤の輪郭を削除します (図 15)。



図 15: 照明ソースの方向に基づいて、形状を色で塗りつぶす

このプロセスを繰り返して、すべての文字を作成します(図16)。私の場合、カスタムフォントを作成するときは、1つの文字を利用して、似た文字を作成することがよくあります。この場合、「C」を利用して「D」を作成することで、時間を節約できます。個別の文字が完成したら、すべての文字の間隔を狭くします。



図16: 残りの文字を作成する

「ARCADIA」レタリングの中程度のグレー部分をすべて結合し、明るいグレー部分をすべて結合します。結合することで、さまざまな用途に合わせてロゴの色を簡単に変更できるようになります。また、デザインの要素を結合すると、12～15個以上の形状ではなく、2～3個の形状にのみ変更を適用すれば済むので、色や効果の適用作業に要する時間を短縮できます。形状を結合するには、形状を選択して **Ctrl + L** を押すか、プロパティバーの **[結合]** ボタンをクリックします。次に、明るいグレーの形状と中程度のグレーの形状を選択し、**Ctrl + G** を押して両方の形状をグループ化します。

サブコピー(「Games & Grill」)には、カスタムフォントではなく、既存のフォントを使用することにしました。サブコピーのフォントはブランドのその他のマーケティングでも使用されるため、フォントの選択が非常に重要になります。また、さまざまなウェイトで利用できるフォントを選択することにしました。これは、外観の一貫性を確保する上で有効だからです。

次に、メインテキストとサブテキストを選択し、プロパティバーの **[整列/配置]** ボタンをクリックして、**[整列/配置]** ドッキングウィンドウを開きます。ドッキングウィンドウで、**[左右中央揃え]** ボタンをクリックして、メインテキストとサブテキストを中央に配置します(図17)。今度は、テキストとイメージを配置します(図18)。



図 17: メインテキストとサブテキストを整列する



図 18: テキストとイメージの配置

次に、色を追加していきます。青とゴールドのテーマを選択し、これらの色にさまざまな影を使用することになりました。また、戦士の腕に肌の色合いを付けると良いと思いました。形状のいずれかに色を割り当てたら、**カラー スポイト ツール**  を使用して、割り当てた色をコピーして他の形状に適用します。**カラー スポイト ツール**で色をサンプリングすると、**カラーを適用モード**に自動的に切り替わり、サンプリングした色を次のオブジェクトに適用することができます。これで、ロゴは完成しました(図 19)。



図 19: 完成したロゴ

優れたロゴは柔軟性を備えています。CorelDRAW を使用すると、ブランドで使用するロゴのさまざまなバリエーションを作成することができます (図 20 および図 21)。



図 20: ロゴのさまざまなバリエーション



図 21: 暗いバックグラウンドと明るいバックグラウンドでのロゴのパリエーション

広告板

ロゴの他の用途として、ブランド向けに作成した広告板による広告を見ていきたいと思えます (図 22)。



図 22: 広告板で使用するロゴ

このような屋外の広告を作成する場合、広告の目標が何かを考えるようにしています。目標と言っても、さまざまな目標が考えられます。たとえば、この広告の場合、目標は Arcadia のレストランで出される料理を宣伝することですが、ロゴはブランド認知にも活用されます。ロゴがデザインの主要な焦点や最大要素でなくても、大きなイメージの色とテーマは小さなロゴと連携して、ブランドの普及を促進するのです。ここでは、最初に料理の写真をインポートします ([ファイル] ▶ [インポート]) (図 23)。



図 23: 広告板による広告に使用する写真

繰り返し利用するデザイン要素を使用して、広告スペースを2つに分割します。この要素は、ブランド認知の面で大きな役割を果たします。グラフィックの一方の側に写真を配置し、もう一方の側に情報を配置します。同じ高さの円と長方形を作成し、これらの形状を同時に選択して、プロパティバーの【ウェルド】ボタンをクリックします。次に、円のデザイン要素の上に新しい形状を配置し、グレーの色で塗りつぶします(図 24)。

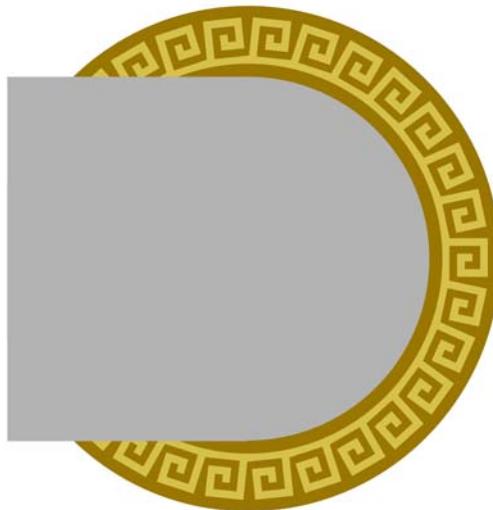


図 24: 円形のデザイン要素の一方の側にグレーの形状を配置

次に、写真を右クリックし、【パワークリップの内容】を選択します。マウスポインタが大きな黒い矢印に変わったら、グレーの形状をクリックして、形状の内側に写真を配置します(図 25)。

パワークリップ オブジェクトの内容を編集するため、**Ctrl** キーを押しながら、**選択**ツールでオブジェクトをダブルクリックします。パワークリップ オブジェクトの内側に、小さいリボンのグラフィックを作成し、**テキスト** ツールを使用して、リボンの上に「NEW」と入力します。**選択**ツールを使用して、テキストを目的の位置に移動します。次に、赤から濃い赤へのグラデーション塗りつぶしをリボンのグラフィックに適用します。これを行うには、**透明** ツール  をクリックし、リボン形状の右端をクリックして左にドラッグし、形状の中央でマウス ボタンを離します。この操作の結果、黒から白へのグラデーションが生成されます。白のカラー ノードを選択し、中程度の濃さの赤に変更します (図 26)。



図 25:[パワークリップ] コマンドを使用して、グレーの形状の内側に写真を配置



図 26: テキストを配置し、グラデーション塗りつぶしを適用したりボンを追加する

すべてを目的の位置に配置したら、[内容の編集の終了] ボタン  をクリックして、パワークリップフレームの内側に写真を配置します (図 27)。



図 27: 編集後の写真をパワークリップフレームの内側に再度配置

長方形ツール  を使用して、大きな長方形を作成し、プロパティバーに広告板の実際の寸法を入力します。この長方形に、わずかな青のグラデーション塗りつぶしを適用します。パワークリップオブジェクトを右クリックし、[パワークリップの内容] をクリックします。矢印のポインタを使用して、先ほど作成した大きな青の広告板の長方形を選択します。この

段階で、パワークリップオブジェクトの内側にパワークリップオブジェクトを配置したことになります。新しいパワークリップオブジェクトの内容を編集し、写真要素のサイズを変更して、広告板形状の左側に配置します (図 28)。



図 28: 広告板の長方形の内側に写真要素を配置する

次に、ロゴのサブテキストと同じフォントを使用して、テキストを追加します。「Chicken Kabob」には、ロゴのサブテキストよりも太いフォントを選択します。テキストを複製し (Ctrl + D)、キーボードの矢印キーを使用して、元のテキストから上側と左側に少しだけ複製したテキストを配置します。テキストの上側を白で塗りつぶし、下側を黒で塗りつぶして、ドロップシャドウ効果をわずかに出します (図 29)。**カラー スポイト** ツール  を使用して、円のグラフィック要素から色をサンプリングして、先に使用した明るいゴールドの色に「Kickin'」と「Meal」の色を変更します。ブランド向けの色の作業をする場合は、対象の色を頻繁に使用するので、プロジェクトで使用する色だけで構成されるカスタム カラー パレットを用意することをお勧めします。CorelDRAW の作業領域の下部にある [ドキュメントのパレット] は、ドキュメントで使用する色に基づいて自動的に更新されるので、ブランド用の色にいつでも簡単にアクセスすることができます。



図 29: テキストを追加する

次に、円内のデザイン要素と基本的に同じデザイン要素を使用して、テキストのグラフィック アクセントを作成します。**フリーハンド** ツール  を使用して、一連の線を描画し、ロゴの明るい青の輪郭カラーを適用します (図 30)。プロパティバーの [輪郭の幅] ボックスに幅の値を入力し、線の輪郭を大幅に太くします。一連の要素が意図した外観になったら、[オ

プロジェクト]▶[輪郭をオブジェクトに変換]をクリックします。さまざまな看板製作店やベンダーと共同で作業する場合、自身が作成した設計がどのプログラムで制作されるか分からないことがあります。プログラムによっては、自分が意図した外観とは違った輪郭効果が表示される場合があります。一方、基本的なベクトル形状にすれば、汎用性が非常に高くなります。最後に、ロゴを追加します(図31)。



図 30: テキストにグラフィック要素を追加する



図 31: ロゴを追加する

同様のプロセスで広告板を作成する場合、次のステップは、広告板の実際の制作に使用するアプリケーションや設備によって大きく異なります。広く普及している形式のデジタルプリンタは、RIP ソフトウェアが付属しており、JPG、TIFF、ベクトル EPS、PDF など、広範なファイル形式をインポートできます。個人的には、特にベクトル要素とビットマップ要素の両方がデザインに組み込まれている場合は、PDF を使用することにしています。

PDF を作成するには、最初に広告板デザインの要素をすべて選択してグループ化し (Ctrl + G)、P キーを押して、デザインをページに中央に配置します。ページサイズを変更する場合は、すべての要素を選択解除し、プロパティバーに広告板の寸法を入力できます。次に、[ファイル]▶[PDF に書き出し]をクリックし、ファイル名を入力して、[PDF プリセット]リスト ボックスでオプションを選択します。最高品質の PDF ファイルを生成する場合は、[プリプレス]と[編集]オプションを選択することをお勧めします。ファイルサイズを小さくする場合は、[設定] ボタンをクリックし、[オブジェクト] タブの [ビットマップのダウンサン

プリング]領域で設定を調整します。広告板は、地上から高い位置に設置されることが多いため、超高解像度にする必要はありません。この広告板の場合は、72 dpi にしました。そこで、デザイン内の写真を72 dpi にダウンサンプリングします。**[OK]**をクリックし、**[保存]**をクリックします。これで、RIP ソフトウェアにデザインをインポートして、印刷する準備が整いました。

もちろん、別のファイル形式を使用することもできます。この場合、まず、ソフトウェアで使用できる形式を確認し、作業に必要な寸法を特定する必要があります。CorelDRAW でアートワークを作成したら、**[ファイル]**▶**[エクスポート]**をクリックし、**[ファイルの種類]**リストボックスで、広告板制作ソフトウェアで使用可能なファイル形式を選択します。ほとんどの場合、JPG または TIFF 形式を使用できます。**[エクスポート]**をクリックし、次に表示されるダイアログボックスで、出力設定を調整します。地上から高い位置に設置される大型の広告板の場合、アートを実寸の低解像度でエクスポートすることも、スケールを縮小して高解像度でエクスポートすることもできる点に留意してください。ここでも、デジタル広告板の制作に使用するソフトウェアによって対応が異なってきます。

同様のプロセスで、このブランドのさまざまな広告やマーケティング資料を作成しました。たとえば、各種のカード(図 32)、メニューの表紙(図 33)、車両のラップ(図 34)、建物の看板(図 35)などです。ここでは、デザインごとにロック アンド フィールの一貫性を維持することが重要です。



図 32: 名刺、ゲームカード、ギフトカード

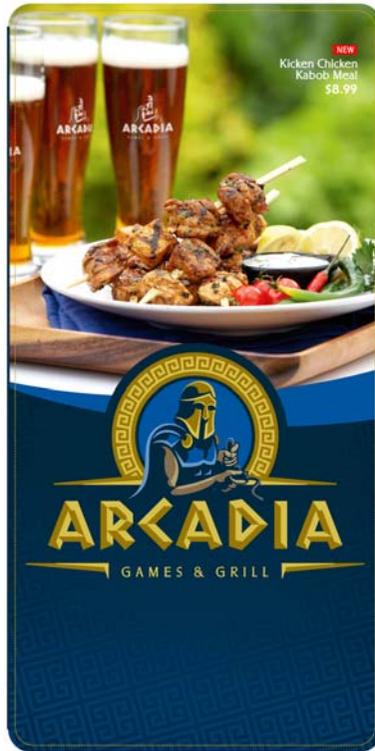


図 33: メニューの表紙



図 34: 車両のラップ



図 35: 建物の看板

Copyright © 2014 Corel Corporation. All rights reserved. すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。